

2019年度 第13回 国家資格キャリアコンサルタント試験

(キャリア協) 実技試験(論述) 解答例(中里)

※今回のテーマは「自己理解」と「仕事・職務理解」「キャリアビジョン」と盛りだくさんです。一見すると、「ワークライフバランス」がテーマのように見えますが、それは「今ここでの問題」ではないことに注意します。「将来介護の問題もあるし…」と言って転職しようとする事例と同様です。「今ここ」の視点で問題を捉え、ではどうするかといった将来的なキャリアビジョンに目を向けていくことが重要になります。

それと、今回の「空欄 A」の出題がいつもと違って、「空欄 A」の下に(中略)が入っていますが、これはどう意味なんですか。(中略)は CC2 の発言の範疇と考えれば、「空欄 A」と CL2 の発言が必ずしもつながっていないと考えるのが妥当かと考えます。つまり、今回の「空欄 A」は CL1 を要約すればいいということになります。

【設問 1】 逐語の空欄 A で、キャリアコンサルタントとしてあなたなら CL1 の発言を受け、どのような応答をするか記述せよ。(10 点)

「正社員登用制度について知ってはいたものの、まさか上司から打診があるなんてびっくりで、それは Z さんの働きぶりへの評価だと嬉しい半面、考えてもいなかったためどうしたらいいか悩まれているのですね。」

【設問 2】 キャリアコンサルタントとして、あなたが考える相談者の「問題」を記述せよ。(10 点)

「家庭と仕事を両立しながら長く働ける職場で働きたいという漠然としたキャリアビジョンがあるものの、雇用形態やマネープランを含む中・長期的ライフキャリアプランが具体的に描けていないため、雇用形態について決断できずにいる。また、正社員としての仕事内容について理解不足であるため、正社員は仕事量も増え責任も重く、自分には難しいとの思い込みがあり、自己理解不足である。」

【設問 3】 この事例の展開に関し、以下の問いに答えよ。(30 点)

(1) Z さんに対しどのような提案を行うか。逐語の空欄 B に入る、あなたが考える提案の要点を 2 つ記述せよ。

- ① 「今後のご自身の中・長期的ライフキャリアプラン」
- ② 「会社内での、仕事・子育て両立支援制度」

①は「自己理解不足」の観点から。②は「仕事理解不足」の観点から。

(2) 設問 3 (1) で解答した 2 つのうちいずれかを選択して、キャリアコンサルタントとしてあなたは
この面談で、この後どのような働きかけを行うか、具体的に記述せよ。

① のケース

今後、家庭と仕事を両立しながら長く働きたいという気持ちを支持し、また、働きぶりが評価されたことを
労う。まずは、正社員としての働き方や仕事内容について具体的に人事に尋ねてみることを提案する。そ
の上で、正社員としての働き方や仕事内容が、契約社員とではどのように違うのかについてそれぞれ具体
的に書き出し比較してみることで、どちらが自身の思い描いていた働き方に近いか確認してみるよう促す。
また、自身の今後の仕事について、マネープランを含めた中・長期的ライフキャリアプランを作成して
みることを提案し、それをもとに自身の思い描く将来の働き方に合った雇用形態等について、自ら決定し、前向き
に仕事に向えるよう支援していく。